



女性職員活躍事例 第8回

広島管内で活躍されている女性職員の皆さんにお話を伺いましたので御紹介します。

今回は・ **松江少年鑑別所 専門官** です。



専門官の経歴

採用 貴船原少女苑
その後の勤務歴
松江少年鑑別所
松江少年鑑別所 専門官
松江刑務所 矯正処遇官
松江少年鑑別所 専門官
現職

Q1 現在の業務内容について教えてください。

庶務課で主に外来者の受付や接遇、文書の授受、発送及び保存についての業務をしています。

小規模施設なので、女子少年が入所したときには、衣体検査や入浴指導などの男性職員によることが不適当な処遇の業務に就くこともあります。

Q2 この仕事に就ききっかけについて教えてください。

高校生のときに職業ガイドブックで法務教官という仕事を知り、興味を持ったのがきっかけです。その後、BBS活動で児童自立支援施設にボランティアに行ったり、児童相談所でメンタルフレンド活動をしたりすることによって、様々な子供たちと係わりました。どのような子供であっても社会で幸せに生活できるように手助けができるような仕事に就きたいと思い、法務教官になりました。

Q3 これまでこの仕事を続ける中で、特にうれしかったことや達成感を感じたことはありましたか。

拝命は貴船原少女苑で教育部門に配属されました。寮担任を2年間しましたが、そのとき直接かかわった少年達が出院した後に手紙をくれたり、苑に来てくれたりして、元気にやっていることを感じる事ができたのはうれしかったです。

その後は、少年に直接働きかける部署で勤務することがなかったので、いい経験をさせてもらったと思っています。

Q4 反対に、困難なことや問題はありましたか。また、それをどのように乗り越えてきましたか。

私が初めて妊娠し出産をする頃は、まだ産休や育休を取得し勤務を続ける職員があまり周囲におらず、また私も初めての経験だったので、仕事と体調のバランスを取ることが難しかったです。また、出産後もやらなければならない仕事があるにもかかわらず、子どもの急な体調不良等に対応しなければならず、思う通りに仕事ができない、周囲に迷惑を掛けていると感じることが多かったです。

しかし、上司や同僚に自分の現状を伝え、多くの配慮をいただくことができたので、なんとか今でも勤務を続けることができています。

Q5 仕事をする上で、心掛けていることはありますか。

分からないことは分からないままにしないということは心がけています。分からないまま業務を続け間違えたままにしておくと、後からリカバーすることに多くの時間が掛かるし、周囲にも迷惑を掛けてしまうからです。

また、仕事は業務時間内に終わらせないと、家庭生活が立ち行かなくなるので、できる仕事はため込まず取り掛かれるものはすぐにやってしまうようにしています。

Q7 これまでのキャリアを振り返られて、いかがでしょうか。

平成18年に拝命し、今年で16年目となりますが、4回出産をしたためそのうち7年近くは産休や育休で休んでしまっています。休業明けも育児時間をいただいたり、当直を免除していただいたりとなかなかフルで働けている状態ではありません。業務の内容も定期異動に合わせて変わることもあれば、復帰のタイミングで変わることもあり、多くの業務をさせてもらってきたと思います。

キャリアを振り返って、自信をもってこれができます、ということはなかなか難しいですが、どんな業務を任されても前向きに取り組んでいく姿勢は培われてきたのではないかと感じています。

Q6 業務を進める上で、相談できる職員はいらっしゃいますか。

相談できる職員はいます。現在、4回目の育休から復帰したばかりで休業前は、今の業務とは違うことをしていました。今の文書関係の業務はその前にしていたとはいえ、行政文書の電子的管理が進んでいる中、前の経験や知識では足りないことが多いです。前任者はもちろんのこと、上司にも困ったことは相談していません。また、他施設の文書係の方や同期など、知識や経験をたくさん持っている方々に助けていただくこともあります。

Q8 仕事のやりがいについて教えてください。

法務教官になるに当たって初めに言われたのは、法務教官はなんでもするという事だったと思います。しかし、少年に関わりたくてこの仕事に就いたので、貴船原少女苑で3年目に庶務課に配属されたとき、一人目の育休後少年鑑別所に、二人目の育休後刑務所に転勤したときには、自分は何がしたくてこの仕事についたのだろうかと思うこともありました。

今でも、いつか少年と直接関わる業務につきたいという思いもありますが、組織の中で今はそういう役割分担をしていて、自分も少年矯正の一端を担っていると思うことがやりがいにつながっていると思います。

Q9 女性が仕事を続ける上で、何が大切だと思われますか。

女性、男性に関わらないのではないかと思います、周囲の理解や支えがなければ仕事は続けられないと思います。上司に困っていることやどういった支えを必要としているのかを伝え、組織として容認できるかどうかを判断してもらってきました。

ただ、困っているからといって過大な支えを要求したり、できることをできないと言ったりはしないように気を付けています。真摯に業務に取り組み、信頼して仕事を任せてもらえるようにしたいと思っています。

Q10 どのような職員に、この世界に入ってきてもらいたいですか。

この世界のほんの一部しか知らない私が言うのもおこがましいのですが、みなさん大変な思いをしながら働いておられると思います。大変だからこそ、組織の中で働いていること、その組織は社会の中にあることを忘れてはならないと思っています。

この世界特別なことではないかもしれませんが、今まで、たくさんの人に支えてきてもらったので、これからは自分がしてもらったことを返していけるようになりたいと思っています。人と人とは支え合い、助け合っていることを忘れず、懸命に働いてくれる人と私は一緒に働きたいなと思います。